

令和5年度 第3回浜松市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年3月7日（木） 午前10時00分から12時00分まで
- 2 開催場所 浜松市立中央図書館 大会議室
- 3 出席状況 委員：岡田 建志、遠藤 浩子、高木 みゆき、
三宅 栄子、屋名池 倫子、三津間 洋子
欠席：清水 友理子、永田 浩介
事務局：
中央図書館長 枝村賢美、
中央図書館館長補佐 内藤真澄、
図書館管理グループ長 佐藤文彦、
図書館サービスグループ長 鈴木早苗、
資料・情報グループ長 鵜飼康生、
天竜図書館長 笹竹由美子、春野図書館長 森下和之、
佐久間図書館長 藤本勝治、水窪図書館長 宇井智洋、
龍山図書館長 鈴木忠、
中央図書館 森田ひとみ主任、増原愛海、北村麗風
欠席：文化振興担当部長 嶋野聡、調査支援グループ長 吉田佐織
- 4 傍聴者 0人（一般：0人、記者：0人）
- 5 議事内容 (1) 令和5年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果について（報告）
(2) 令和6年度図書館評価指標について
(3) その他
・西図書館の移転について
- 6 会議録作成者 図書館管理グループ主任 森田ひとみ
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
- 8 会議記録

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 中央図書館長あいさつ
- 4 議題

- (1) 令和5年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果について（報告）

佐藤図書館管理グループ長が説明

- ◆資料1-1 令和5年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果（館内調査分）
- ◆資料1-2 令和5年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果（Web調査分）
- ◆資料1-3 【参考】自由記載欄への記載のうち「成果」に分類されるもの
- ◆資料1-4 令和5年度利用に関するアンケート調査票（館内）
- ◆資料1-5 令和5年度利用に関するアンケート調査票（Web）

質 問 意 見

三 宅 委 員

全体的に評価が上がったことは喜ばしいことである。ただ、問5の「ご利用になったことがある方」「ご利用になったことがない方」の合計数に違和感を覚える。19頁「⑧視覚障がい者向けサービス」の「利用になったことがある方」は264名だが、31頁の「知っている」は1,272名で、「知らない」等を含めて1,915名となっている。視覚障がい者は郵送でのやり取りが多く、来館することはとても稀である。回答者が264名というのは多すぎる。

問5の質問はサービスを利用した方に使い勝手を問うものだが、すべてのサービスを利用している人はいないと思われる。まずは自分が利用したサービスを選ぶ設問を設けたらどうか。問5の各設問の回答者数にばらつきがあるので、きちんと回答をしている人も多いとは思いますが、質問をよく読まず全部に丸をつけている人もいるのではないかと。

内 藤 補 佐

過去に委員の皆様からご指摘を受け、アンケートの書式を変更した。本来であれば「知ってはいるが利用はしない」にチェックをしてほしいところである。

三 宅 委 員

質問の意図をきちんと理解していない人もいると思われる。「どちらでもない」という回答も多く、きちんとした結果が得られていないのではないかと懸念する。

内 藤 補 佐

「知ってはいるが利用はしない」という選択肢を間違いなく選んでもらえるよう、何かしらの工夫を検討していきたい。

三 宅 委 員

アンケート用紙の裏面も使用できるのであれば、フローチャートのようなレイアウトにしてはいかがか。今回のレイアウトもかなり見やすくはなったが、まだまだ回答に読解力を必要とする状態である。

佐 藤 G 長

今回質問項目が増えたため、初めて裏面を使用した。だが「裏面あります」と明記したが、裏面の回答率は低かった。質問数や裏面への誘導は検討すべき所である。

三 宅 委 員

回答が裏面に行くような矢印など、さらなる工夫を検討いただき、より確実な回答とそれに基づく統計を取っていただきたい。

岡 田 委 員

館内アンケートの問5は、「知っているが利用はしない」と答える場合、下の欄の4つの選択肢から「知っているが利用はしない」理由を選ぶようになっている。よく読めば質問の意図が分かるが、さっとアンケートを記入する中では、ただ丸をつけるだけになってしまう可能性がある。この紙面に収めるのは難しいと思うが回答者がどう回答すればよいか、もう少し分かりやすい形になると良い。

三津間委員

指定管理者が運営している図書館も満足度が高い。中央図書館と連携をし、全館が足並みを揃えて目指すべき方向性を共有しているのは大変素晴らしい。「サービスに満足している」や「レファレンスでお世話になった」といった声は、どこか一部の館のみではなく、全ての館に寄せられていることも喜ばしいことである。

「浜松市図書館ビジョン」を手にした時、このビジョンは市民のワークショップを経て、図書館の目指すべき姿を考えたものと聞いた。「浜松市図書館ビジョン」は平成30年に作成されたものだが、当時と今の姿を比較したとき、すべての事業は掲げられた目標に向かっており、満遍なく前進している。例えば、学校が休校になる月曜日に本を借りたい等の開館日に関する要望に対し、一部の図書館で月曜開館を実現している。また、休館がなるべく重ならないよう、閉館時間をずらす等の工夫もされている。平成30年の時点であった、貸出履歴がわかると良いという意見やスマートフォン用のホームページがあると良い、飲食できるスペースがあると良い、子どもが賑やかにしても気兼ねなく利用できるような空間分け、時間分けの要望等「浜松市立図書館ビジョン」で掲げられたことが実現、改善されていることを強く感じる。

「浜松市立図書館ビジョン」作成時の市民のワークショップの中で、図書館に街の情報を発信するコーナーがあると良いとの面白い意見が挙がった。図書館が行う企画展とは異なり、それぞれの図書館がもつ身近な地域の情報を、その地域に住む方に有効活用してもらえそうな取り組みは現在行われているか。

佐藤 G 長

地域の人が情報発信する場となるよう、図書館としてどのような取り組みをしているかということによるのか。

三津間委員

ワークショップで出た意見では図書館の情報に限らず、地域の情報発信について言っていると思われる。

佐藤 G 長

図書館に持参いただいたポスターやチラシについては、その館のスペース等の実情に合わせて掲示や配架をしている。館によって広さや置き場所に限度があり、すべてのポスター、チラシについて掲示できている訳ではない。ポスター、チラシの持参者には、掲示する、しないを含めすべて図書館側に一任することの許可を得ている。

三津間委員

ポスターやちらしを場所があれば置くという位置づけにするか、図書館として情報発信の一つとして捉えるかで姿勢が変わってくる。置き場所の有無ではなく、どのような意味合いで地域の情報発信を行うかを視野に入れてもらいたい。

市民のワークショップで挙がった要望は実現が難しいものもあり、すべてを達成しなくてはならないものではないが、そういった要望が「浜松市図書館ビジョン」という冊子にまとめられている以上、前向きに考慮するものであって欲しい。

屋名池委員

館別の回収枚数に偏りが見られる。来館者数にもよると思うが北遠の図書館の回収枚数が少ないと感じる。これだけでは統計が取りにくい。もう少し回収枚数が増えると良い。

佐藤 G 長

来館者全員が回答しているわけではないため、回答者が多くなるよう工夫をしていく。

(2) 令和6年度図書館評価について

佐藤図書館管理グループ長が説明

- ◆資料2 図書館評価について
- ◆資料3 図書館評価の方法について
- ◆資料4 令和6年度浜松市立図書館評価指標(案)
- ◆資料5 浜松市立図書館評価(令和4年度)(参考)

岡田委員 「いかす」の指標「1 図書館HPアクセス件数」と「つながる」の指標「3 デジタル化した地域資料のアクセス件数」では件数にかなりの違いがあるが、デジタル化した資料を掲載しているのは図書館のHPではないということによるのか。

佐藤G長 お見込みの通りである。「3 デジタル化した地域資料のアクセス件数」は「1 図書館HPアクセス件数」には含まれていない。デジタル化した地域資料はデジタルアーカイブを指し、それぞれ別で統計を取っている。

三津間委員 「はぐぐむ」「2 学校図書館への資料貸出冊・点数」の実績を見ると、令和2、3年はコロナ禍の影響もあり件数が非常に多い。だが「第3次浜松市子供読書活動推進計画」では10年後の令和13年に、学習支援パックと学習支援カードによる目標を2万と掲げている。その観点からも、令和6年度の目標値は妥当であると考えられる。
「いかす」「2 市民1人あたりの貸出冊・点数」の目標値が令和2年から4年の平均値よりも低く設定した意図は何か。また「いかす」「目指す方向性と実現に向けた主要事業」「多文化サービスの推進」の中に「浜松国際交流協会などの地域の多文化共生に資する団体との連携」とあるが、これは具体的にどのようなことを考えているのか。

鈴木G長 「浜松国際交流協会などの地域の多文化共生に資する団体との連携」について、コロナ禍前は毎年2月に開催されている、はままつグローバルフェアで図書館のブースを作り、電子図書のPRを行っていた。また、雄踏にある浜松市外国人学習支援センターに職員が出向き、夏に開催されるイベントに参加させてもらい、読み聞かせやブックスタートのPR、図書館利用案内の配布等、積極的に来館を呼びかけた。コロナも落ち着いてきたこともあり、再開を検討している。

内藤補佐 「2 市民1人当たりの貸出冊・点数」については、コロナ禍においても感染対策を行い取り組んだ結果、例年通りの高い数値で推移をしてきた。だがコロナが5類に移行してからは、利用者の行動範囲が広がり、余暇等を図書館利用以外で過ごすことが多くなったのではないかと考えられる。各図書館同じように貸出冊数が伸び悩んでいる。今年度の実績を考慮しながら目標値を設定した結果、このようになった。

佐藤G長 来年度の目標は、今年度の実績見込みである「4.86」よりは高い目標を掲げているものの、元となる実績見込みの数値が低いため、例年通りの高い数値を設定することが難しい。

- 枝 村 館 長 今回初めて評価の指標として設定をした「3 はままつ電子図書の貸出冊・点数」には、そういった利用者の行動の多様性や、今後変わってくるであろう利用者の動向を把握する意図がある。電子図書の利用者は近年増加しており、紙の図書と合わせて全体を把握することが重要であると考えている。
- 岡 田 委 員 「はぐくむ」 「4 はままつ電子図書蔵書（コンテンツ）数」の目標値について、電子図書は個人向けの書籍と図書館向けの書籍が別で販売されており、図書館向けの方は1点当たりの価格が高額である。また、図書館向けの電子書籍は個人向けのものに比べて書籍自体が少ない状況である。その中で、市立図書館の蔵書とするにふさわしいものがどれくらい用意されているのか、また価格との兼ね合いで、どれくらい購入予算が見込めるか、ということ踏まえての設定値ということによろしいか。
- 佐 藤 G 長 お見込みの通りである。
- 三 宅 委 員 令和3年度と5年度は前年度の国からの交付金により蔵書が増えたそうだが、来年度の交付金はどのくらいの金額になりそうか。
- 佐 藤 G 長 交付金はコロナ対策という名目であったため、来年度は見込みがなく、おそらく今後もそういった交付金は無いと思われる。
- 三 宅 委 員 他の項目に比べ、「4 はままつ電子図書蔵書（コンテンツ）数」の目標値が高めだったため、図書館の姿勢や目標達成に向けての対策を考えているということがうかがえた。ぜひ頑張ってください。
- 三 津 間 委 員 「はぐくむ」 「目指す方向性と実現に向けた主要事業」の1つ目「小学生を対象としたおすすめ図書リストの改訂」について、図書リストはしばらく改訂されていないため、作業を通じて職員の研修にも繋がる上に、利用者にとっても助かるものである。改訂したリストをどう活用するか、その方法は考えているのか。
- 鈴 木 G 長 夏休み等長期休暇の期間中に、読書感想文を書くなどの目的で児童書のお問い合わせを多く受ける。読書感想文全国コンクールの課題図書や県で推薦する優良図書はいち早く貸出中になり予約多数の状態になりがちである。そのような状況下で、その代わりとなるような本を尋ねられる方も多い。そうした場を捉え、図書館で多く所蔵し内容的にもお薦めする本を積極的に紹介する際に活用したいと考える。また、子育て中の方から読書相談として、絵本は読み聞かせなどで楽しんできたので、次に子どもが楽しめる本について問い合わせを受けることも多くある。現在、開館日や開館時間の拡充に伴い、児童書サービス担当職員を全ての時間帯に勤務させられるとは限らない。担当者不在時でもリストを活用して対応が可能ないようにしていきたい。
- 三 津 間 委 員 非常に良くできたリストである。様々な場所、場面でPRし、活用していただきたい。
- 岡 田 委 員 令和6年度浜松市立図書館評価指標について、原案の通り確定する。

(3) その他
・西図書館の移転について

- 岡田委員 飲食コーナーを設置することは利用者の要望に沿うこととなり大変良いことである。使用上の注意として、閲覧中の図書を汚損してしまわないよう、臨時に預けるロッカーを設けたり、飲食コーナーに入る前に本を戻すよう促すなどの工夫は予定しているか。
- 鈴木G長 中央図書館の飲食コーナーは飲食専用であり、本の閲覧は別の場所ですようをお願いをしている。図書館の本を開きながら飲食しているのを見かけた際は、すぐにお声かけをするようにしている。西図書館も同様の運用を考えている。
- 岡田委員 ほとんどは常識的に利用してくれると思うが、必ずしも適切に利用できる方ばかりでないと思ったため図書館側の取り組みを質問した。
- 屋名池委員 多目的室は講座等に使用することを想定しているのか。
- 内藤補佐 その予定である。基本的に図書館で開催する講座や講演会で使用することを考えている。
- 屋名池委員 講座は毎日開催されないと思うが、空いているときは他の利用者が講習会等で使用したり、閲覧席として利用できたりするのか。
- 枝村館長 使用していない間の利用について、閲覧席として利用していくかは今後検討していく。多目的室は協働センターにある有料の貸会議室とは違い、無償の図書館の施設である。会議室としての利用は「浜松市図書館条例」に基づき、読書活動及びその推進を目的としている等の条件に合致する方の利用となる。

9 会議録署名人 岡田 建志 会長

三宅 栄子 委員

令和6年3月7日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いがないことを確認した。

令和 年 月 日

署名 _____

署名 _____